



学習評価で大切にしたいこと

年間を見通した学習評価

国語科では、一つの指導事項を年間で複数回繰り返して指導することが多いです。そのため、年間を見通して、単元の目標や評価規準を設定することが重要になります。

児童の具体的な姿を想定した学習評価

国語科では、言語活動を適切に位置付けて指導することが大切です。児童が取り組む活動の中で、例えば文章を読み取ってまとめているリーフレットの中に、どのような児童の記述があれば「おおむね満足できる」状況と評価できるのかについて、言語活動と関連付けて想定しておくことが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。なお、国語科においては、基本的には「内容のまとまりごとの評価規準」が単元の評価規準となります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使っている。	「話すこと・聞くこと」、「書くこと」、「読むこと」の各領域において、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げている。	言葉を通じて積極的に人と関わったり、思いや考えを広げたりしながら、言葉がもつよさを認識しようとしているとともに、言語感覚を養い、言葉をよりよく使おうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

国語科における「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、意思的な側面を評価します。なお、国語科では次の四つの内容を全て含め、単元の目標や学習内容等に応じて評価規準を設定します。

- I 粘り強さ（例：積極的に、進んで、粘り強く 等）
- II 自らの学習の調整（例：学習の見直しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして 等）
- III 他の2観点〔知・技〕〔思・判・表〕において、重点的に指導する内容（特に、粘り強さを発揮してほしい内容）
- IV 当該単元の具体的な言語活動（自らの学習の調整が必要となる具体的な言語活動）

第5学年及び第6学年〔思考力・判断力・表現力等〕「C 読むこと」（言語活動例：C（2）イ）
本単元の言語活動：気に入った宮沢賢治の作品について、ポスターを基に友達に推薦する活動

単元の評価規準例 粘り強く（I）登場人物の相互関係や心情等について描写を基に考え（III）、学習課題に沿って（II）推薦しようとしている（IV）。

Point

ねらいや言語活動と結び付けて、粘り強さや自らの学習を調整する内容を位置付けることが大切です。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの3領域の指導の中に、知識及び技能の内容である言葉の特徴等の指導事項を位置付けて評価することが基本です。語彙では想定される文言を複数想定しておき、それらの文言が使えたかどうかで評価します。

思考・判断・表現

話すこと・聞くこと、書くこと、読むことの3領域における思考力、判断力、表現力等が身に付けられているかを評価します。その際、低学年では事柄の順序、中学年では段落の関係、高学年では全体の構成等、発達段階に応じて見取ることが大切です。

主体的に学習に取り組む態度

粘り強さと自らの学習調整の関わり合いを踏まえて評価します。例えば、単元のゴールである音読発表会の見直しをもった上で、登場人物の気持ちなどが的確に表れている文を見つけ、自分が読み取った内容に合うように音読を繰り返している姿等を見取るようにします。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 3観点をバランスよく評価

国語科では、言語活動のまとまりの中で評価を行います。そのため、単元全体の言語活動を見直し、児童の姿が最も見取りやすい時間に評価を位置付けることが大切です。

2 単元の評価規準の具体化

国語科では、単元の評価規準を教材に照らして具体化したものを「指導と評価の計画」に位置付けます。具体化に向けては、文学的な文章を読み込む等、教材分析が必要です。

(例) 第6学年「C 読むこと」(文学的な文章)の授業

◇ 単元名 宮沢賢治の作品を読み味わい、ポスターで友達に推薦しよう 教材名「やまなし」、宮沢賢治作品

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①語感や言葉の使い方に対する感覚を意識して、語や語句を使っている。	①「読むこと」において、登場人物の相互関係や心情等について、描写を基に捉えている。 ②文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめている。	①粘り強く登場人物の相互関係や心情等について描写を基に考え、学習課題に沿って推薦しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全10時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
3	・かにの親子の様子について、「五月」と「十二月」を比べて読む。	思	1	[思・判・表①] (観察) ・かにの親子や兄弟の相互関係等について、かにの言動等に注目しながら、「五月」と「十二月」を対比して読む読み方を確認している。
4	・川底の様子について、「五月」と「十二月」を比べて読む。	知	○	[知・技①] (ワークシート) ・色彩表現や擬声語・擬態語等の使い方に対する感覚を働かせ、それらの語や語句を使って発言したりワークシートにまとめたりしている。
6	・飛び込んでくるものについて、「五月」と「十二月」を比べて読む。	思	○	[本時] [思・判・表①] (観察・ワークシート) ・「飛び込んでくるもの」と「かに」の相互関係等について、かにの言動や周りの情景を表す描写等に注目しながら、「五月」と「十二月」の特徴を対比して読んでいる。
8	・推薦したい宮沢賢治の作品についてポスターにまとめる。	主	○	[主①] (観察・ワークシート) ・ポスターで推薦するという学習課題を意識しながら、何度も文章を読み返して場面の様子の特徴付けている描写等を見付けようとしている。

指導に生かす評価

単元の前半で、対比して読み進められていない児童に対して、机間指導の中で叙述を整理して示す等しながら支援します。

記録に残す評価

対比した読み方を基に読み取っているかについて、児童全員の学習状況を記録します。授業後に評価規準を基にワークシートの記述から見取ることも必要になります。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表①]

かにの言動や周りの情景を表す描写等に注目しながら、かわせみとやまなしの共通点や相違点から関係を捉えることを通して、「五月」は弱肉強食の恐ろしい世界、「十二月」は穏やかで平和な世界のように、それぞれが象徴しているものについて対比的にワークシートに記述したり発表したりしている。

Point

具体的な児童の姿の設定

- ・目の前の児童が関わってくる叙述等を見定める。
- ・叙述等を解釈した児童の読みを複数挙げる。
- ・指導事項に照らして児童の読みを一般化する。

評価方法の例

- ・叙述にサイドラインを付けたり理由を書き込んだりしているワークシートやノートの記述
- ・リーフレットなど言語活動でまとめた作成物



学習評価で大切にしたいこと

単元を見通した学習評価

単元における学習問題を設定して資料等で調べ、社会的事象の特色を考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりして、社会生活に生かそうとする態度を養います。そのため、単元を見通した目標と評価規準を設定することが重要になります。

学習状況を把握し、指導に生かす評価

評価場面では、記録に残すだけでなく、資料から複数の情報を読み取ることはできるが個々の社会的事象を関連付けて考えることに課題がある等の学習状況を把握することが大切です。教師はその上で児童を支援します。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。なお、小学校社会科では、学習指導要領の特徴から「内容のまとめり」をそのまま「単元」と捉えることができます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや働き、地域や我が国の歴史や伝統と文化を通して、社会生活について理解しているとともに、様々な資料や調査活動を通して、情報を適切に調べまとめている。	社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考えたり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて社会への関わり方を選択・判断したり、考えたことや選択・判断したことを適切に表現したりしている。	社会的事象について、国家及び社会の担い手として、よりよい社会を考え主体的に問題解決しようとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、下記の視点を踏まえ、単元の目標や学習内容等に応じて設定します。

- I 知識及び技能や、思考力、判断力、表現力等を身に付けることに向け粘り強い取組を行おうとする側面
- II 粘り強い取組を行う中で自らの学習を調整しようとする側面

第3学年「事故や事件から人々の安全を守る」

単元の評価規準例	内容
	①地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして(II)、学習問題を追究し、解決しようとしている(I)。 ②学習したことを基に地域の安全を守るために自分たちができようことを考えようとしている。※単元によっては、①のみの場合もあります。

Point

「単元の評価規準例」の②については、選択・判断したり、発展について考えたりする内容に関連する単元で設定します。例えば、第3学年「市の様子の移り変わり」や、第5学年「我が国の工業生産」の単元設定が考えられます。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

学習問題の解決に向け、必要な情報を集め、読み取り、社会的事象の様子について具体的に理解しているか、また、調べた内容を文等にまとめ、社会的事象の特色や意味を理解しているか、という学習状況を捉え、評価します。

思考・判断・表現

社会的事象から学習問題を見だし、比較したり関連付けたりしながら社会的事象の特色や意味について考えているか、また、社会への関わり方を選択・判断したりしているか等の学習状況を捉え、評価します。

主体的に学習に取り組む態度

社会的事象について、予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究・解決しようとしているか、また、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとしているかという学習状況を捉え、評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 努力を要する状況の児童への支援

資料から必要な情報の読み取りや、社会的事象の意味の理解等の学習状況を見取り、十分に理解できていない状況にある児童には、支援を行うことが大切です。

2 記録に残す評価場面の設定

「思考・判断・表現」であれば、個々の社会的事象を関連付けて考える場面をメモする等、それぞれの観点で児童の姿が最も見取りやすい時間に評価を位置付けます。

(例) 第3学年「地域の安全を守る働き」の授業 ◇ 単元名 「事故や事件から人々の安全を守る」

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①警察の活動について必要な情報を集め、読み取って理解している。 ②警察は、地域の安全を守るために関係機関や地域の人々と協力し、様々な活動を行っていることを理解している。	①警察の緊急時への対応に着目し、警察や関係機関の諸活動について関連付けて考えている。 ②学習したことを基に、地域や自分自身を守るためにできることを考えたり、選択・判断したりしている。	①地域の安全を守る働きについて予想や学習計画を立て、学習を振り返ったり見直したりして、学習問題を追究し、解決しようとしている。 ②学習したことを基に地域の安全を守るために自分たちができることを考えようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全9時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
2	・警察がどのような仕事をしているか理解できるようにする。	知	1	[知・技①] (ノート) ・警察の活動について資料を基に必要な情報を集め、読み取って理解している。
4	・交通事故が起きた時の、警察や関係機関の働きについて考える。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート) ・警察の緊急時への対応に着目し、警察や関係機関の諸活動について関連付けて考えている。
6	・事故や事件から安全を守る人々の働きについてまとめることができるようにする。	知	○	本時 [知・技②] (ノート) ・警察は関係機関や地域の人々と協力し、地域の安全を守るため様々な活動を行っていることを理解している。
8	・単元の学習を基に、地域の安全を守るため自分たちができることを考える。	主	○	[主②] (ワークシート) ・学習したことを基に、地域の安全を守るため自分たちができることを考えようとしている。

指導に生かす評価

資料の読み取りに困難がある場合は、グラフの一部を拡大する、資料の情報量を減らして提示する、ヒントカードを示す等が考えられます。

記録に残す評価

警察や関係機関の資料を用意し、それぞれの活動を関連付ける場面を設定し、児童の特徴等をメモする等、全児童の学習状況を記録します。

*例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [知・技②]

警察と関係機関の活動に着目し、「交通事故が起きたら、警察が中心となって消防署と連携して事件や事故に対応したり、地域の人々と協力してパトロールをしたりしている」等について記述している。

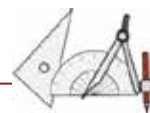
Point

具体的な児童の姿を設定するために

学習内容に沿った資料を準備し、児童の社会的事象に対する気付き等の記述内容を予想しながら授業づくりを行います。

評価方法の例

- ・社会的事象が起こった原因と結果について、根拠を挙げながら表現しているか等が分かる記述
- ・必要な情報を収集し、まとめているか等が分かる記述



学習評価で大切にしたいこと

学びが深まった姿で目標を捉え、評価対象とする
「何を評価すればよいのか」と難しく考えず、問題発見・問題解決している児童の学びの過程を具体的にイメージし、目標に到達した姿を捉えてから、評価を行きましょう。

表面に出にくい資質・能力は多面的に見取る
テストで評価しにくい「思考・判断・表現」や「主体的に学習に取り組む態度」は、具体物の操作や言語活動の行動観察、図や式表現のノート分析等、複数の評価方法から見取りましょう。

評価の観点及びその趣旨

児童が目標を達成したかどうかを判断するためには、学習状況を観点ごとに評価することが大切です。そのため、算数科の教科目標をもとに作成された「評価の観点及びその趣旨」で方向性を確認し、判断のよりどころを表現した評価規準を作成し、実際に観点別学習状況の評価を行っていくことが必要です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解している。 日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けている。 	日常の事象を数理的に捉え、見通しをもち筋道立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見だし統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり目的に応じて柔軟に表したりする力を身に付けている。	数学的活動の楽しさや数学のよさに気付き粘り強く考えたり、学習を振り返ってよりよく問題解決しようしたり、算数で学んだことを生活や学習に活用しようしたりしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を作成する際、下記のⅠ、Ⅱの視点を踏まえ、学習指導要領の内容をもとに作成します。

- Ⅰ 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることにに向けた粘り強い取組を行おうとする側面
- Ⅱ Ⅰの粘り強い取組を行う中で、自らの学習を調整しようとする側面

Point

単元の評価規準の作成に当たっては、学習指導要領の内容を基に作成した「内容のまとめりごとの評価規準」やそれを更に具体化した「具体的な内容のまとめりごとの評価規準」を参考にすることができます。

第3学年「A 数と計算」(4)「除法」

単元の評価規準

- ① 除法が用いられる場面の数量を、具体物や図などを用いて考えようとしている。
- ② 除法の場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

授業中の問題発見や解決の過程において「知識」は繰り返し使う中で、定着し理解が深まります。また、「技能」も繰り返し使うことで習熟し、生きて働く確かなものとなっていきます。これらのことから、単元の後半に評価の機会を設定することが考えられます。

思考・判断・表現

授業中の問題発見や解決の過程において児童が発揮するので、授業中の発言や話し合いでの活動の様子と、自力解決時の問題解決の様子、適用問題の解決の様子、学習感想等の記述内容を見取ることが考えられます。

主体的に学習に取り組む態度

既習事項を活用したり、話し合いで他者の意見を参考にしたり、振り返ってよりよい表現や方法を考えたり、日常生活の場面において活用しようとする姿等、自らの学習を調整しながら、学ぼうとしているかどうかという意思的な側面を捉え、評価していくことが大切です。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 3観点をバランスよく適切に評価する

「指導と評価の計画」を作成するに当たっては、単元目標を分析し、各時間のねらいにふさわしい1～2観点到に評価項目を精選し、単元を通して3観点をバランスよく評価します。

2 「思考・判断・表現」の評価場面

「思考・判断・表現」の評価については、単元末だけでなく、単元の評価規準の①や②の評価内容ごとに、問題発見や解決の過程を行う時間に「記録に残す評価」を行うことが考えられます。

(例) 第3学年「A 数と計算」(4)「除法」の授業

◇ 単元名 あまりのあるわり算

◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。 ②除数と商がともに1位数である除法の計算が確実ができる。 ③割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。	①除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 ②余りのある除法の余りについて、日常生活の場面に応じて考えている。	①除法が用いられる場面の数量を、具体物や図などを用いて考えようとしている。 ②除法の場面を身の回りから見付け、除法を用いようとしている。(「わり算探し」など)

◇ 指導と評価の計画 (全10時間)

時	主な学習活動	重点	記録	1	2	評価規準・評価方法
1	・余りのある場合でも除法を用いてよいことや答えの見付け方を具体物や図などを用いて考える。	思 主				[思・判・表①] (行動観察、ノート分析) ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。 [主①] (行動観察、ノート分析) ・除法が用いられる場面の数量を、具体物や図などを用いて考えようとしている。
2	・余りのある場合の除法の式の表し方や、余りなどの用語の意味を知る。	知				[知・技①] (ノート分析) ・包含除や等分除など、除法の意味について理解し、それが用いられる場合について知っている。
3	・余りと除法の関係を調べる。	知				[知・技③] (ノート分析) ・割り切れない場合に余りを出すことや、余りは除数より小さいことを知っている。
4	・等分除の場面についても余りのある場合の除法が適用できるかを考える。	思	○	本時		[思・判・表①] (行動観察、ノート分析) ・除法が用いられる場面の数量の関係を、具体物や図などを用いて考えている。

指導に生かす評価

第1時では、余りのある場合でも除法を用いてよいことを見出しているかどうかを見取ります。主に「努力を要する」児童を把握し、支援を行います。

記録に残す評価

第4時では、等分除の場面についても余りのある場合の除法が適用できることを見出しているかどうかを把握して、記録に残します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時におけるおおむね満足できる状況(B)の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表①]

ブロックを操作しながら、等分除の場面についても、余りのある場合の除法が適用できるかについて考え、包含除と同じように余りのある場合の除法を用いてよいことを説明している。

Point

具体的な児童の姿の設定

本時目標に向けて、どのように思考が深まるか、どのように表現が洗練されるか等を、具体物の操作や図による表現、言語活動等に合わせて設定します。

評価方法の例

- ・授業中の発言や話し合いでの活動の様子
- ・自力解決時の問題解決の様子、適用問題の解決の様子、学習感想



学習評価で大切にしたいこと

育成を目指す資質・能力を評価する学習場面の設定

共通点や差異点を基に問題を見だし表現する資質・能力の育成には、比較して問題を見だし表現する場面を設けなければ評価はできません。単元の目標や評価規準から指導と評価の計画を作る際、その場面を設定しましょう。

「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力の育成

観点別学習評価に馴染まない「感性や思いやりなど」に関する内容として、小学校理科では「自然を愛する心情」が考えられます。できるだけ本物の自然との関わりをもてるような授業を進め、感性や思いやりを涵養していくことが大切です。

評価の観点及びその趣旨

下記の「評価の観点及びその趣旨」は、教科の目標を踏まえて作成されている小学校理科全体のものです。「評価規準」の「主体的に学習に取り組む態度」の観点を作成する際は、各学年の目標を参考にしつつ「評価の観点及びその趣旨」に関わる記載を用いることが必要です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	自然の事物・現象についての性質や規則性などについて理解しているとともに、器具や機器などを目的に応じて工夫して扱いながら観察、実験などを行い、それらの過程や得られた結果を適切に記録している。	自然の事物・現象から問題を見だし、見通しを持って観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、それらを表現するなどして問題解決している。	自然の事物・現象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

なお、小学校理科では、学習指導要領の特徴から「内容のまとめり」をそのまま「単元」と捉えることができます。ただし、光と音の性質では、教科書が「光の性質」と「音の性質」に分けて扱っている場合もあり、学習指導要領の「内容のまとめり」と教科書の単元が一致していない場合もあります。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、評価規準を設定します。

- I 粘り強さ（例：進んで関わり、粘り強く 等）
- II 自らの学習の調整（例：他者と関わりながら、今までの学習を生かして、問題解決しようとしている 等）
- III 理科を学ぶ意義や有用性（例：学んだことを学習に生かそうとしている、生活に生かそうとしている 等）
- IV 内容のまとめりに対する学習の対象（例：風とゴムの働き、太陽と地面の様子、光と音の性質 等）



第3学年（3）「光と音の性質」の内容のまとめり（単元）について例示

単元の
評価規準

- ①光と音の性質（IV）についての事物・現象に進んで関わり（I）、他者と関わりながら、問題解決しようとしている（II）。
- ②光と音の性質（IV）について、学んだことを学習や生活に生かそうとしている（III）。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「知識」とは自然事象に対する基本的な性質、規則性等の理解、「技能」とは観察実験を行う際の基礎的な技能（器具などの操作、データの記録等）のことです。知識と技能は行動観察やパフォーマンステスト等見取る場面を分け、総括して評価します。

思考・判断・表現

4年間を見通し発達段階に応じて問題解決の力を育成します。児童が自然事象に対して比較して、関係付けて、条件制御しながら、多面的に調べる活動場面を設定し、授業内の発言や、レポート、ペーパーテスト等から状況を把握し、評価を行い、中学校につなげます。

主体的に学習に取り組む態度

自然事象に進んで関わり、粘り強く、他者と関わりながら問題解決しようとしているとともに、学んだことを学習や生活に生かそうとしているかを発言や行動の観察等から評価します。また、授業外でも児童の姿として表出していた場合は評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価

自然事象から児童が問題を見いだす力を発揮する場面を設定し、その上で、児童が経験するようにします。育成を目指す資質・能力の評価規準を児童と共有し、実態を見取ります。

2 記録に残す評価の時間の位置付けを考える

問題を見いだす力の育成をねらった授業を単元で複数回位置付けることができる場合、はじめから記録に残す評価場面とするのではなく、児童の学習状況を確認する場面として位置付けます。

◇ (例) 第3学年(3) 音の性質の授業 ◇ 単元名 音の性質
◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①物から音が出たり伝わったりするとき、物は震えていること、また、音の大きさが変わるとき物の震え方が変わることを理解している。 ②器具や機器などを正しく扱い、調べ、それらの過程や得られた結果を分かりやすく記録している。	①音の性質について、差異点や共通点を基に、問題を見だし、表現するなどして問題解決している。 ②音の性質について、観察、実験などを行い、得られた結果を基に考察し、表現するなどして問題解決している。	①音の性質についての事物・現象に進んで関わりながら、他者と関わりながら問題解決しようとしている。 ②音の性質について学んだことを学習や生活に生かそうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全7時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
1	・楽器を使って音を出し、音について知っていることを出し合う。 ・紙で笛を作って音を出す活動をして、各自が問題を見いだす。	思		1 [思・判・表①] (ノート) ・音について差異点や共通点を基に、問題を見だし表現している。
2	・各自が見いだした問題をもとに、学級共通の問題を設定する。 問題：音が出ているとき、物はふるえているのだろうか。 ・複数の物で音を出し比較しながら調べ、観察記録する。	知		[知・技②] (観察・ノート) ・トライアングル、太鼓、紙笛等を用いて音と震えとの関係を調べ分かりやすく記録している。
3	・大きな音と小さな音を聞いたり、出したりする経験をして、音の大きさについての問題を見だし、表現する。 問題：音が大きいときと小さいときで物のふるえ方は、ちがうのだろうか。 ・見いだした音の大きさに関する問題を調べ、観察記録する。	思	○	本時 [思・判・表①] (ノート) ・音の大小について差異点や共通点を基に、問題を見だし表現している。

指導に生かす評価
楽器や紙笛から音が出ている自然事象を比較し、問題を見いだすことができている児童を見取ります。その際、観察の視点を与える等、支援を行います。

記録に残す評価
1、3時に同じねらいの授業を位置付けます。音の大きさの比較ができる教材を準備し、問題を見いだす場面を設定し、ノートの記述から全児童の評価を記録に残します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表①]
音の大きさを変えたときの物の震え方の違いに着目し、「音が大きいときと小さいときで物の震え方は違うのだろうか」「音の大小は震え方の違いなのか」等、検証可能な問題を見だし、表現している。

Point 「おおむね満足できる」状況 (B) から「十分満足できる」状況 (A) への判断

評価規準として設定した内容を、児童の姿から見取ることができれば (B) と判断できます。(A) への判断は理科では「学習状況が科学的になっている」という視点が一つの基準になります。例えば「実証性」の側面から質の深まりを判断する際には、振り返り用紙の記述等から「何度も実験することが大切だ」等、データの信頼度を高めるために実験回数の必要性に気付く等の言葉から見取ることが考えられます。



学習評価で大切にしたいこと

創意工夫した単元計画を作成

生活科の単元において、妥当性、信頼性のある評価を行うには、学習指導要領に示された9つの内容を基に、各学校で児童の実態を考慮し、2年間にわたって各内容をどの学年でどのように扱うかを、意図的、計画的に構想することが大切です。

活動や体験そのものを重視

生活科は、児童が具体的な活動や体験を通す中で学んでいくことから、評価は、一人一人の多様な学びや育ちが表れる活動や体験そのもの、すなわち結果に至るまでの過程を重視します。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさ、それらの関わり等に気付いているとともに、生活上必要な習慣や技能を身に付けている。	身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現している。	身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学ぼうとしたり、生活を豊かにしたりしようとしている。

なお、生活科における「内容のまとめ」とは、学習指導要領に示された9つの内容であり、生活科の単元は、その内容を基に、各学校が意図的、計画的に構成するものです。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元を構成する具体的な学習対象や活動を位置付けていきます。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、下記のⅠ～Ⅲの視点を踏まえ、単元の目標や学習内容等に応じて設定します。その際、評価規準の構造例を参考にします。

- Ⅰ 粘り強さ…思いや願いの実現に向かおうとしていること。
 - Ⅱ 学習の調整…状況に応じて自ら働きかけようとしていること。
 - Ⅲ 実感や手応え…意欲や自信をもって学んだり生活を豊かにしたりしようとするを繰り返し、安定的に行おうとしていること。
- ※評価規準の構造例…「○○し、●●しようとしている。」等として作成する。具体的な学習活動に即して、○○にはⅠ～Ⅲに関して具体的に表したものを、●●には、単元を通して期待する具体的な児童の姿を記述する。

第1学年 内容(2) 家庭と生活



単元の
評価規準例

家族のことに関心をもって家庭生活を見つめ(Ⅰ)、規則正しい生活を送ったり、自分の役割を積極的に果たしたりして(Ⅱ)、家族の一員であることを自覚し(Ⅲ)、支えてくれている家族に感謝の気持ちをもって意欲的に生活しようとする(●●)。

*Ⅰ～Ⅲの視点は、必ずしも個別に示されるものではありません。具体的な児童の姿が明らかになることが大切です。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

思いや願いの実現に向けた活動や体験の過程において気付いたことについて評価を行います。特に、それらの気付きの質が、「自覚化された気付き」「関連付いた気付き」「自分自身への気付き」等のように高まっているかについて評価します。

思考・判断・表現

思いや願いの実現に向けて気付いたことを基に考え、気付きを確かなものとしたり、新たな気付きを得たりするようにするため、思考を働かせている姿を評価します。多様な学習活動の中で、例えば、「見付ける」「比べる」「たとえる」「試す」「見通す」「工夫する」等の思考が働いているかについて評価します。

主体的に学習に取り組む態度

児童が思いや願いの実現に向けて、対象に関わり続ける姿、自分の活動を見つめ、状況に応じて自ら働きかけようとしている姿、対象への関わりを通して喜びや自信を得た姿、対象に関わる意欲を高めている姿等を評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1と2のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 小單元における評価規準の設定

小單元とは、一連の具体的な学習活動のまとまりです。生活科では、結果に至るまでの児童の学習過程を見取るために、具体的な児童の姿として小單元の評価規準を設定します。

2 小單元ごとの評価

生活科では、小單元ごとに評価を行います。小單元によっては、3観点のうちいくつかを評価したり、同一の評価規準について、複数小單元にわたって評価したりする場合があります。

(例) 第1学年 内容(2) 家庭と生活 の授業 ◇ 単元名「みんなの「にこにこ」 だいさくせん」
◇ 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
家庭での家族や自分の喜びが、自分の生活と深く関係していることに気づき、家庭での生活は互いに支え合っていることや家庭でできる自分の役割があることが分かっている。	家庭での喜びを増やすため、家族のことや自分でできること等について考え、計画を立て実行するとともに、考えたり、聞いたりして分かったことや気付いたことを表現している。	家族のことに興味をもって家庭生活を見つめ、規則正しい生活を送ったり、自分の役割を積極的に果たしたりして、家族の一員であることを自覚し、支えてくれている家族に感謝の気持ちをもって意欲的に生活しようとする。

◇ 指導と評価の計画 (全9時間)

時	主な学習活動	知	思	主	評価規準・評価方法
(1 小 単 元 1 ・ 2)	・家庭で自分が「にこにこ」するときを思い起こす。				[思・判・表①] (発言・作成物) ・自分が家庭で「にこにこ」している様子を具体的に想起し、表現している。 [主①] (発言・作成物) ・家庭での様々な自分の姿に目を向けようとしている。
	・家庭で自分が「にこにこ」するときの絵をかく。		○ ①	○ ①	
(3 小 単 元 2 ・ 4 ・ 5 ・ 6 ・ 7)	・家族が「にこにこ」するのはどんなときか考える。	○ ①	○ ②	○ ②	[知・技①] (発言・学習カード) ・「にこにこ」が増えると家庭生活をよりよくできることに気づき、家庭での自分の役割が分かっている。 [思・判・表②] (発言・行動・作成物) ・計画を立て家族の「にこにこ」を増やす実践をするとともに、分かったことや気付いたことを表現している。 [主②] (行動・学習カード) ・家族への感謝の気持ちをもちながら、家族の「にこにこ」を増やそうとしている。
	・家族の「にこにこ」を増やす「にこにこだいさくせん」の計画を立てる。(家庭での実践)				
	・実践して気付いたこと等を紹介する準備をする。				
	・実践を紹介し、分かったこと等を生かして「にこにこだいさくせん2」の計画を立てる。(家庭での実践)				

指導に生かす評価
記録に残す評価

生活科では児童の学習状況の全体像を捉え、個人内の成長を認めることが大切です。各単位時間では、小單元の評価規準に照らし、どの観点について特に評価するかを明確にして記録に残すとともに、1単位時間のみならず、複数回の姿を見取り、児童の変容を捉え、指導の改善に生かしていきましょう。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本小單元における「おおむね満足できる」状況(B)の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表②]

家族の喜ぶことを意識して自分でできそうなことを考え、改善しながら家庭生活をよりよくするための取組を実行していくとともに、自分の実践が家族の役に立ったことを表現している。

Point 具体的な児童の姿を設定するために

- ・各内容に示された資質・能力を確認し、単元を必然性のある学習活動で構成する。
- ・活動に対する児童の思いや願い、その高まりを想定する。

評価方法の例

- ・継続的な活動の中での対象への関わり方の観察
- ・活動を振り返った発言
- ・気づきを記述した学習カード
- ・家庭や地域の人々からの情報



学習評価で大切にしたいこと

音楽を形づくっている要素を選択して評価する

「思考・判断・表現」を指導・評価をする際のポイントとなる「音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係など）」は、その題材の学習において児童の思考・判断のよりどころとなる主な要素を選択して評価します。

言語活動で児童の姿を想定して評価する

表現の活動において、表したい思いや意図を言葉で伝え合いながら、実際に歌ったり演奏したりして音楽表現を高めていく音楽科の特質に応じた言語活動を適切に位置付けて指導することが大切です。実際の評価に当たっては、表現活動や言語活動等において、どの場面で、どんな姿が見られれば「おおむね満足できる」状況と評価するのかを想定しておくことが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで評価の基本的な枠組みを捉えることができます。題材の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、題材で中心的に扱う指導事項を位置付けていきます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解している。 ・表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌ったり、演奏したり、音楽をつくったりしている。 	音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように表すかについて思いや意図をもったり、曲や演奏のよさなどを見だし、音楽を味わって聴いたりしている。	音や音楽に親しむことができるよう、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

音楽科における「主体的に学習に取り組む態度」に係る観点の趣旨に照らして、意思的な側面を評価します。なお、音楽科では、下記の視点を踏まえ、題材の目標や学習内容等に応じて評価規準を設定します。

- I 文頭にその題材の学習に粘り強く取り組んだり、自らの学習を調整しようとする意思をもったりできるようにするために必要となる、取り扱う教材曲の特徴や学習内容など、児童に興味・関心をもたせたい事柄を記載する。
- II 扱う分野を選択して挿入する。

Point

表現活動や鑑賞活動と結び付けて、粘り強さや自らの学習を調整する内容を位置付けることが大切です。

第3学年及び第4学年「A表現 歌唱」

題材の評価規準例
曲の特徴を捉えて歌う学習（I）に興味をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱（II）の学習活動に取り組もうとしている。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「知識・技能」は、学習内容に応じて知識と技能に軽重を付けることも考えられます。その際は、一方に著しく偏ることがないように留意する必要があります。また、知識と技能を一体的に評価する場合があります。

思考・判断・表現

音楽を形づくっている要素の表れ方や、音楽を特徴付けている要素と音楽の仕組みとの関わり合いについて考えている状況や、思いや意図をもつ過程や結果の状況の評価します。

主体的に学習に取り組む態度

題材の学習に関心もてるようにしながら、各時間の学習活動に粘り強く取り組んでいるか、題材の目標の実現に向けて自己の学習を調整しようとしながら取り組んでいるか等について継続的に評価し、適切な場面で総括的に評価します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 題材内でのバランスの取れた評価計画の工夫

題材のまとまりの中で各観点の評価ができるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、バランスを考慮するとともに、具体的に評価の時期や方法を考えることが大切です。

2 評価の結果を記録に残す場面の精選

授業で常に児童の学習状況を把握し、それを基に児童の学習を充実させていく指導に生かす評価と関連させ、評価規準に基づき、評価の結果を記録に残す場面を適切に位置付けます。

(例) 第4学年「A表現 歌唱」の授業

◇ 題材名 曲の特徴を感じ取って歌おう
 楽曲名「とんび」 作詞：葛原しげる 作曲：梁田貞

◇ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①曲想と音楽の構造などとの関わりについて気付いている。[知識] ②思いや意図に合った音楽表現をするために必要な、呼吸に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けている。[技能]	①旋律、フレーズ、反復、変化を聴き取り、それらの働きが生ま出すよさや面白さ、美しさを聴き取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、曲の特徴を捉えた表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。	①曲の特徴を捉えて歌う学習に興味をもち、音楽表現を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全3時間)

時	主な学習活動	知	思	主	評価規準・評価方法
1	・歌詞の表す様子や旋律の反復などの特徴を捉えて表現を工夫する。				
2	・旋律、フレーズ、反復、変化などをよりどころにして、曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりについて気付くとともに、それらを生かして表現を工夫する。	○ (知)	○ (本時)		[知・技①] (ワークシート・観察) ・曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するために、ワークシートにまとめたり意見を交流したりしている。 [思・判・表①] (ワークシート・観察) ・音楽を形づくっている要素を聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。
3	・第1～2時の学習を生かし、思いや意図に合った表現をするために必要な呼吸の仕方や姿勢に気を付けて、自然で無理のない歌い方で歌う技能を身に付けて歌う。	○ (技)			[知・技②] (演奏の聴取) ・創意工夫を生かした表現で歌うために必要な技能について学習した内容が歌唱表現に表れている。 [主①] (観察・ワークシート) ・学習活動に対して主体的・協働的に取り組んでいる。

指導に生かす評価
 主体的に取り組む態度の観点に照らし、継続的に見取り、支援の必要な児童には旋律の変化に目を向けるよう助言する等、指導に生かします。

記録に残す評価
 旋律の変化等に着目し、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、どのように歌うかについての思いや意図をもつ過程や結果の状況を評価します。

* 例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 【思・判・表①】

音楽を形づくっている要素(旋律、フレーズ、反復、変化など)を聞き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考え、ワークシートに記述(例:旋律の動きが少ないから、とんびがゆったりと飛んでいる様子を表している)し、思いや意図をもって歌っている。

Point

具体的な児童の姿を設定するために

- ・記述している言葉や発言の内容が具体的にどこまで表現できていればよいのか明確にする。
- ・本時の中の評価する学習場面を決める。

評価方法の例

- ・どのように工夫して歌いたいかについて、発言したり歌い表そうとしたりしている。
- ・感じたことや音楽の特徴等に触れながら、どのように歌いたい、思いや意図をノート等にも書いている。



学習評価で大切にしたいこと

「知識」は〔共通事項〕アが活用されているかを評価

「知識」は、形や色などの名前を覚えるような知識のみを表すのではなく、児童が自分の感覚や行為を通して理解したものです。評価する際には、児童が形や色などの感じ等に注目している様子を捉え、造形的な視点として分かっているかどうかを各題材で評価していきます。

「思考・判断・表現」は「発想や構想」と「鑑賞」を評価

「思考・判断・表現」の評価は、〔共通事項〕イの「自分のイメージ」をもちながら「発想や構想」と「鑑賞」をそれぞれ評価し、題材の最後に総括します。そのためには、表現と鑑賞を関連させた題材を実施するといった授業改善が大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るために、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を参考にして評価規準を設定することが必要です。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 対象や事象を捉える造形的な視点について自分の感覚や行為を通して理解している。 材料や用具を使い、表し方などを工夫して、創造的につくったり表したりしている。 	形や色などの造形的な特徴を基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや美しさ、表したいこと、表し方などについて考えるとともに、創造的に発想や構想をしたり、作品などに対する自分の見方や感じ方を深めたりしている。	つくりだす喜びを味わい主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

上記の「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、右の図画工作科の内容のまとまりを確認し、題材の具体的な内容も加えて、題材の目標や評価規準を作成します。

図画工作科 内容のまとまり	「造形遊び」	「A表現」(1)ア(2)ア、〔共通事項〕アイ
	「絵や立体、工作」	「A表現」(1)イ(2)イ、〔共通事項〕アイ
	「鑑賞」	「B鑑賞」、〔共通事項〕アイ

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

- ・「主体的に学習に取り組む態度」は、当該学年の「観点の趣旨」を踏まえて作成する。学習指導要領の「2 内容」には、「学びに向かう力、人間性等」について示されていないので、「1 目標」にある該当学年の目標(3)を参考に作成します。
- ・題材目標に「楽しい(豊かな)生活を創造」はあってもいいが観点別評価には入れない。「学びに向かう力、人間性等」から、観点別に学習状況を評価するものだけを「主体的に学習に取り組む態度」に示します。例えば、低学年の「形や色などに関わり楽しい生活を創造しようとする態度を養う」は個人内評価のため入れないようにしましょう。

Point

題材に即して「表現する活動」や「鑑賞する活動」を具体的に示す評価規準を作成する。

(例)「…進んで水彩絵の具で絵に表す学習活動に取り組もうとしている。」

(中学年 絵や立体、工作)

3 観点を評価する上での留意点

知識・技能

「知識」については、〔共通事項〕アの「形や色など(低学年)」を視点として理解や活用できているかを、児童の様子と「A表現」では作品から、「B鑑賞」ではワークシートから教師が読み取ります。そして、「知識・技能」は、「知識」と「技能」の評価を考え合わせて総括します。

思考・判断・表現

各題材で「発想や構想」と「鑑賞」をそれぞれ評価し最後に総括します。そのためには表現と鑑賞を関連させ、双方を評価していくことが大切です。その際、双方の観点到〔共通事項〕イを「自分のイメージをもちながら」と示して一緒に評価します。

主体的に学習に取り組む態度

児童の学習状況だけでなく、粘り強く学習を調整しているかを状況把握するために題材の最初から最後までをしっかりと見取ります。評価する際には、発想や構想することや技能を働かせること、鑑賞することに進んで取り組んでいるかを見取り、題材の最後に評価を総括します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1と**2**のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価とは

特に題材前半では、努力を要する状況の児童を中心に、児童への説明を変えたり、材料や技法を試す場の準備をしたり等の手立てや授業改善を行って、評価を次の授業に生かすことが大切です。

2 3観点を題材の中でバランスよく適切に評価

観点別学習状況を記録に残す場面を精選するためには、題材のまとまりの中で各観点の評価ができるよう、指導と評価の計画を立てる段階から、具体的に評価の時期や評価方法等を考えておくことが重要です。

(例) 第4学年「A表現」と「B鑑賞」の授業を関連させた授業

◇題材名 音楽会の記念CDジャケットをつくろう!

◇題材の評価規準

～曲のイメージにあった形や色を組み合わせよう～

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>① 作品を表現したり鑑賞したりする際に、自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。</p> <p>② 材料や用具を適切に扱い、手や体全体を十分に働かせ、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。</p>	<p>① 形や色などの感じを基に、音楽会の曲のイメージをもちながら、感じたことから、表したいことを見付けることや表したいことを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。</p> <p>② 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりし、自分の見方や感じ方を広げている。</p>	<p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺</p> <p>① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺</p>

※ ① 知識、② 技能、③ 発想や構想、④ 鑑賞、⑤ 態度 (表現)、⑥ 態度 (鑑賞)

◇ 指導と評価の計画 (全7時間)

※ ○…学習状況を把握し指導に生かす場面 ◎…学習状況を記録に残す場面

時	主な学習活動	知	思	主	2 評価規準・評価方法
1	・美術作品を鑑賞し、形や色などの感じに気付く。	○	○	○	① (児童の様子、ワークシート) 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、造形的なよさや面白さ、表したいこと、いろいろな表し方などについて、感じ取ったり考えたりしている。
2	・曲から感じ取ったことを基に、CDジャケットをどのように表すか考える。	○	○	○	② (児童の様子、ワークシート) 形や色などの感じを基に、音楽会の曲のイメージをもちながら、感じたことから、表したいことを見付けることや表したいことを考え、形や色、材料などを生かしながら、どのように表すかについて考えている。
4	・曲のイメージから感じ取ったり考えたりしたことを基に、CDジャケットに表せるように創意工夫して創造的に表す。	○	○	○	③ (児童の様子、作品) 材料や用具を適切に扱い、表したいことに合わせて表し方を工夫して表している。 ④ (児童の様子、ワークシート) 作品を表現したり鑑賞したりする際に、自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かっている。
7	・完成作品を相互鑑賞し、題材のまとめをする。	○	○	○	⑤ (児童の様子) つくりだす喜びを味わい進んで形や色と関わり、鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

指導に生かす評価

題材前半の○では、児童の学習状況から、個に応じた手立てや授業改善を行います。

記録に残す評価

題材後半の◎では、各観点で記録に残す評価をし、最後に知識と技能、発想や構想と鑑賞をそれぞれ総括します。そのためには必要に応じて題材の中で適宜記録に残す等、評価をどこで行うか考えましょう。

* 例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

Point

「鑑賞」のワークシートを工夫する

本時の「鑑賞」の評価は、授業の様子や鑑賞のワークシート等から見取ります。同時に「知識」も見取るために、ワークシートの項目を工夫し、児童の発言も含めて評価しましょう。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表]

美術作品を鑑賞し、形や色などの感じを基に、自分のイメージをもちながら、作品の造形的なよさや面白さ、いろいろな表し方等について、感じ取ったり考えたりしている。



学習評価で大切にしたいこと

2 学年間を見通した題材計画

家庭科では、学習指導要領の各項目に示される指導内容を指導単位にまとめて組織した題材を構成し、教科目標の実現を目指しています。そのため、2 学年間を見通した題材の計画的な配列が必要です。題材計画に合わせた題材目標や評価規準を設定しましょう。

実践的・体験的活動と評価

日常生活に必要な知識及び技能は、実践的・体験的な活動を通して児童が習得します。児童の発達の段階や学習のねらいを考慮して製作、調理等の実習や、観察、実験等、適切な学習活動を設定し、評価を行いましょう。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す家庭科の「評価の観点及びその趣旨」を確認して評価の基本的な枠組みを捉えます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	日常生活に必要な家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。	日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	家族の一員として、生活をよりよくしようと、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

なお、家庭科では、「評価の観点及びその趣旨」を参考にして、右記の「内容のまとめり」（項目）及び指導事項に関係する部分を抜き出し、題材の評価規準を作成します。

内容：B 衣食住の生活
項目：（5）生活を豊かにするための布を用いた製作
※家庭科では項目が「内容のまとめり」となります。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は、下記のⅠ～Ⅲの内容を含め、教科の目標（3）や学習内容に応じて設定します。

- Ⅰ 粘り強さ（知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取組を行おうとすること）
- Ⅱ 自らの学習の調整（知識及び技能を獲得したり、思考力・判断力・表現力等を身に付けたりする中で自らの学習を調整しようとする）
- Ⅲ 実践しようとする態度（生活を工夫し、実践しようとする）

Point

題材の評価規準を作成する時には、下線の部分に学習指導要領に示す項目（内容のまとめり）を設定します。

第5学年 内容B（5）生活を豊かにするための布を用いた製作

題材の評価規準例 家族の一員として生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり（Ⅰ）、振り返ったりして（Ⅱ）、生活を工夫し、実践しようとしている（Ⅲ）。

3 観点を評価する上での留意点

知識・技能

主に家庭生活に関する内容を取り上げ、日常生活に必要な基礎的な理解とそれらに係る技能を身に付けているかどうかを、ペーパーテストや技能の確認テスト、実習を通じた実践記録表や行動観察等から評価します。

思考・判断・表現

習得した知識及び技能を活用し、身近な生活の課題を発見、解決する力等が身についたかどうかを、問題解決的な学習の中で評価します。解決方法を考え、実践し、振り返る場面等を捉え、自分の考えを理由を明確にして分かりやすく説明できるか等をワークシートの記述や発言等から判断します。

主体的に学習に取り組む態度

家族の一員として生活をよりよくしようと知識及び技能を活用しているか、考え工夫しているか、実践しようとしているかを評価します。題材の中で事前に評価時期を定め、ポートフォリオや実践記録表等の記述や行動観察等から評価します。

題材・本時における学習評価の進め方

題材における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価とは

努力を要する状況と判断される児童への支援と手立てを考えるための評価です。評価後は、例えば段階見本や拡大写真、タブレット端末等で動作の動画を見せる等、個に応じた指導の工夫が大切です。

2 問題解決的な学習の中で評価場面を位置付ける

家庭科では、家庭生活との関連を図った問題解決的な学習を効果的に取り入れて目指す資質・能力を育成します。問題解決的な学習の中で、日常生活に必要な知識及び技能の習得や課題を解決する力が養われたか等を評価できる場面を精選し、位置付けましょう。

(例) 第5学年 内容B (5) 生活を豊かにするための布を用いた製作 ◇ 題材名 手縫いでオリジナル小物を作ろう
◇ 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①製作に必要な材料や手順が分かり、製作計画について理解している。 ②手縫いによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いについて理解しているとともに、適切にできる。	①生活を豊かにするための布を用いた物の製作計画や製作について問題を見いだして課題を設定し、様々な解決方法を考え、実践を評価改善し、考えたことを表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	①家族の一員として、生活をよりよくしようと、生活を豊かにするための布を用いた製作について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全10時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
1	・身の回りの針と糸を使って作られているものを振り返る。 ・裁縫用具の種類を知る。	知	○	[知・技①] (ワークシート) ・裁縫用具の種類が分かっている。
2 3	・玉結び、玉どめ、なみ縫い、返し縫い、かがり縫いを練習する。	知	○	[知・技②] (観察・練習布) ・なみ縫い、返し縫い、かがり縫いを理解し、適切にできる。
4 5	・玉結び、玉どめ、なみ縫い、返し縫い、かがり縫いを理解し、適切にできる。	知	○	[知・技②] (観察・試験布) ・なみ縫い、返し縫い、かがり縫いを理解し、適切にできる。
6	・オリジナル小物の作品の設計図を考え、製作計画を立てる。	思	○	[思・判・表①] (設計図・製作計画表) ・生活を豊かにするためのオリジナル小物の製作図や製作計画について考え、工夫している。
10	・オリジナル小物の作品発表会をして、工夫点等を伝え合う。	思	○	[思・判・表①] (ワークシート・観察・作品) ・生活を豊かにするためのオリジナル小物の製作について振り返って改善して生活を工夫しようとしている。

指導に生かす評価

練習の時間に、見本と同じように縫える児童やそうでない児童を把握し、個別の支援に生かすための評価です。

記録に残す評価

目標とした手縫いの技能が身に付いているか、練習と同様の内容を実践し、見本と比較して評価し、総括に生かします。

*例示している「題材の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準がより具体的になった児童の姿 [思・判・表①]

オリジナル小物の作品発表会を通して、生活を豊かにするために自分が工夫した点を理由を付けて説明したり、発表会后に友達の意見を聞いて更なる改善を考えたりしている。

Point

具体的な生徒の姿を設定するために

- ・児童が、実感を伴って理解したことが具体的に記述できるように生活場面を想定した体験的な活動を実施する。
- ・事前に予想される児童の考えや工夫を複数予想する。

評価方法の例

- ・実習に関する計画や、考え工夫したことを記録した実践記録表
- ・実験や実習時の行動観察



学習評価で大切にしたいこと

指導事項の明確化

運動領域は、教科書がないため、各学年の指導内容及び指導方法の在り方について、児童の体力等を踏まえ、指導内容を明確にします。その上で、評価の観点に応じた評価方法を整理します。

評価の方法と時期を明確化

単元で重点的に指導し評価する事項を明確化するとともに、いつ、何を、どのように評価するかを計画します。体育科では、知識を理解した後、試行錯誤しながら技能が高まります。技能が十分高まるだけの期間を要することに留意して、記録に残す評価を設けることが大切です。

評価の観点及びその趣旨

「指導と評価の一体化」を図るためには、学習指導要領の目標や内容とあわせて、下記に示す「評価の観点及びその趣旨」を確認することで、評価の基本的な枠組みを捉えることができます。体育科では、運動領域と保健領域があるため、その趣旨についてもそれぞれの内容を示しており、下記の「また、」以降が保健領域の趣旨になります。単元の評価規準を作成する際に、この趣旨を踏まえた上で、単元で中心的に扱う指導事項を位置付けます。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	各種の運動の行い方について理解しているとともに、基本的な動きや技能を身に付けている。また、身近な生活における健康・安全について実践的に理解しているとともに、基本的な技能を身に付けている。	自己の運動の課題を見付け、その解決のための活動を工夫しているとともに、それらを他者に伝えている。また、身近な生活における健康に関する課題を見付け、その解決を目指して思考し判断しているとともに、それらを他者に伝えている。	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう、運動に進んで取り組もうとしている。また、健康を大切に、自己の健康の保持増進についての学習に進んで取り組もうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準を設定する際、[運動領域]は、学習指導要領の(3)「学びに向かう力、人間性等」における指導事項の文末を「～しようとしている」に変え、以下のⅠ～Ⅴに該当する内容で分けて、評価規準を作成します。「健康・安全」に関する内容は「～している」と表現します。[保健領域]は、学習指導要領の内容に「学びに向かう力、人間性等」に関する内容が示されていないことから、「主体的に学習に取り組む態度」については、各学年の目標の(3)「また、」以降の記述を基に作成します。

- | | |
|-------------------------------------|------------------------------|
| Ⅰ 愛好的態度 (例 進んで取り組み、積極的に 等) | Ⅱ 公正・協力 (例 きまりを守り、誰とでも仲良く 等) |
| Ⅲ 責任・参画 (例 場の準備、片付けを一緒に 等) | Ⅳ 共生 (例 考えを認めたり 等) |
| Ⅴ 健康・安全 (例 場の安全に気を付けたり、安全に気を配ったり 等) | |

[運動領域] 第1学年及び第2学年 「B 器械・器具を使つての運動遊び」



単元の 評価規準例

- ①腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうと(Ⅰ)している。
- ②順番やきまりを守り、友達の考えを受け入れ(Ⅳ)、誰とでも仲よく(Ⅱ)運動遊びをしようとしている。
- ③器械・器具や場の準備、片付けを友達と一緒に(Ⅲ)しようとしている。
- ④場の安全に気を付けている。(Ⅴ)

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

「知識」は、運動の行い方をより詳しく言ったり書き出したりしている姿や実際に行っている姿等で見取り、「技能」は、運動をよりよくできる姿等で見取ることで、分けて評価します。

思考・判断・表現

「思考・判断」は、工夫しようとしていることが言動として表出される姿等で見取り、「表現」は、友達や教師に伝えたり、学習カードに書き出したりする姿等で見取ることで、分けて評価します。

主体的に学習に 取り組む態度

体育科では、運動に意欲的でない児童への配慮の必要性を教師と児童が共通理解し、その考えに基づいた行動ができるかを、評価の対象と捉える視点が必要です。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画

1 と 2 のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 指導に生かす評価とは

努力を要する状況と判断される児童への支援に生かします。例えば、絵図や写真でヒントを示す等、個に応じた指導を工夫することが大切です。

2 3観点をバランスよく評価

体育科では、3観点を毎時間評価するわけではなく、単元全体を通して3観点を評価します。その際、技を繰り返す、友達と作戦を立てる等、中心となる児童の学習活動とつなげて評価の観点を位置付けることが大切です。

(例) 第1学年及び第2学年 「B 器械・器具を使つての運動遊び」の授業

◇単元名 器械・器具を使つての運動遊び

◇単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①マットを使った運動遊びの行い方について話したり、実際に動いてみたりしている。 ②マットに背中や腹などをつけて揺れたりいろいろな方向に転がって遊ぶことができる。 ③手や背中で支えて逆立ちをしたり、体を反らせてブリッジしたりして遊ぶことができる。	①複数のコースでいろいろな方向に転がることができるような場を選んでいる。 ②腕で支えながら移動したり、逆さまになったりする動きを選んでいる。 ③友達のよい動きを見付けたり、自分で考えたりしたことを友達に擬態語や擬音語で伝えたり書き出したりしている。	①腕で支えながら移動したり、転がったりするなどの運動遊びに進んで取り組もうとしている。 ②順番やきまりを守り、友達の考えを受け入れ、誰とでも仲よく運動遊びをしようとしている。 ③器械・器具や場の準備、片付けを友達と一緒にしようとしている。 ④場の安全に気を付けている。

◇指導と評価の計画 (全6時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法	指導に生かす評価
1	・リインテーン 運動遊びの紹介	主	1	[主④] (観察) ・マットのずれを見逃さず整えたり、危険な回り方をしないようにしている。	指導に生かす評価 活動中、安全へ留意している様子が見られない場合は、安全な場づくりや動きの必要性等の絵図や動画を示し、個別に支援します。 記録に残す評価 コースの特徴の理解と、転がる動きの習得が進んだ上で、観察と学習カードで評価するよう留意します。
2	・前転がり、後ろ転がり、だるま転がり ・転がり方を組み合わせる	知			
3	・腕支持での川跳び ・腕支持で平均台跳び ・腕立て横跳び越し	思	○		
4	・跳び箱を使った運動遊び ・肋木を使った運動遊び ・さかさまからのブリッジ	技		[知識・技能③] (観察) ・跳び箱を使ったり、肋木を使ったりして、遊ぶことができる。 ・仰向けや倒立からのブリッジを試し、遊ぶことができる。	
5	・コースを設定しグループでいろいろな運動遊びで楽しむ ・グループ同士で紹介し合っ楽しむ	思	○	本時 [思・判・表①] (観察、学習カード) ・複数のコースの特徴に応じて、いろいろな転がり方を選び、遊んでいる。 ・自分のしたい転がり方が行いやすい場を選び、遊んでいる。	
6	・他のグループが行った運動遊びを楽しむ ・もっと楽しくなるよう運動遊びを工夫し、動きのバリエーションを楽しむ	技			

*例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況 (B) の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 [思・判・表①]

自分のしたい転がり方とコースの特徴を踏まえて、コースを選んだ理由を話したり書いたりしている。

Point

具体的な児童の姿を設定するために

単元の目標に到達した児童は、どんな発言や様子が見取れる姿なのか、活動の内容や場面と関連付けながら考えておくことが大切です。学習カードの記述へ評価を返す際、その姿を思い浮かべてコメントを書くことで、教師と生徒が評価規準を共有する機会にすることができます。



学習評価で大切にしたいこと

目標・指導・評価の一体化

児童に付けたい力を明確にし、その力を育成するための単元構成を考え、指導を行いましょう。児童と「中心となる言語活動」を共有した上で指導を行い、評価することが大切です。

多面的・多角的な評価

学期末等、複数の単元の学習の後、ポスターの作成、発表、やり取りや、グループでの話し合い等といった多様な活動に取り組みさせるパフォーマンステストを実施し、評価を行います。

評価の観点及びその趣旨

外国語科における「内容のまとまり」は、五つの領域（聞く、読む、話す〔やり取り、発表〕、書く）であり、領域別に3観点で評価します。「教科目標」「内容のまとまりごとの評価規準」等に基づき、各学校が生徒の実態等に応じて「学年ごとの目標」を設定した上で、「単元ごとの評価規準」を作成します。下記に示す「評価の観点及びその趣旨」も合わせて確認します。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	<ul style="list-style-type: none"> 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付き、これらの知識を理解している。 読むこと、書くことに慣れ親しんでいる。 外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合っている。 	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとしている。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

「主体的に学習に取り組む態度」については、「知識・技能」「思考・判断・表現」で重点とする内容を踏まえた上で、「粘り強さ」「自らの学習の調整」の二つの面から評価します。外国語科では、基本的に、「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準は「思考・判断・表現」の評価規準と一体的に設定します。

また、単元で身に付ける資質・能力を児童と共通理解し、言語活動の振り返りで、自らの成果や課題、次への目標を明らかにさせ、その取組状況を、特定の領域・単元だけでなく、年間を通じて見取ることも大切です。

「話すこと【やり取り】ウ」第5学年

自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問したり質問に答えたりして、伝え合おうとしている。

Point

評価規準は、各領域の「基本的な形」を参考にして作成することができます。左記の【やり取り】では、「【目的等】に応じて、【話題・事柄】について読んで、【内容】を、簡単な語句や文を用いて述べ合おうとしている。」が「基本的な形」として例示されています。

単元の 評価規準例

相手のことを理解したり、自分のことを伝えたりするために、自分や相手の行きたい国のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

3観点を評価する上での留意点

知識・技能

英語の特徴やきまりに関する事項を理解しているかどうか、それらを実際のコミュニケーションにおいて活用する技能を身に付けているかどうかを評価します。

思考・判断・表現

コミュニケーションを行う目的、場面、状況などに応じて、話される内容を理解したり、自分の考えや気持ちを表現したりしているかどうかを評価します。

主体的に学習 取り組む態度

自分の考えや気持ちを伝え合うことの楽しさや言葉の大切さを実感しながら粘り強く学習に取り組む、問題解決の過程を振り返って改善しようとする態度を身に付けているかどうか、自ら英語を使ってコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けているかどうかを評価します。

単元・本時における学習評価の進め方

単元における指導と評価の計画 ①と②のイメージは、下記の「指導と評価の計画」へ青枠で示しています。

1 記録に残す評価を補完
 記録に残す評価場面のない授業においても、指導改善や児童の学習改善に生かすために、児童の学習状況を継続的に確認し、単元や学期末の評価を総括する際の参考にします。

2 何を、どのように、いつ見取るか
 単元の中で、3観点5領域で見取る場面を適切に設定します。この単元では「話すこと【やり取り】」における「思・判・表」を中心に見取るように年間で計画を立てることが重要です。

(例) 第5学年「話すこと【やり取り】」の授業 ◇ 単元名 世界地図を見ながら、お互いの行ってみたい国についてよく知ろう

◇ 単元の評価規準 「話すこと【やり取り】」

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①行きたい国について尋ねたり答えたりする表現や説明する際に用いる形容詞について理解している。 [知識] 行きたい国について尋ねたり答えたりする表現や説明する際に用いる形容詞を用いて、考えや気持ちなどを伝え合う技能を身に付けている。[技能]	①相手のことを理解したり、自分のことを伝えたりするために、自分や相手の行きたい国のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合っている。	①相手のことを理解したり、自分のことを伝えたりするために、自分や相手の行きたい国のことについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。

◇ 指導と評価の計画 (全8時間)

時	主な学習活動	重点	記録	評価規準・評価方法
4	・行きたい国について尋ねたり答えたりする表現や説明する際に用いる形容詞を学ぶ。 ・相手に薦める表現を学ぶ。	1 主 (思)		[主①] (活動の観察、振り返りシート点検) ・既習表現を使って、行きたい国について尋ねたり答えたりしようとしている。
6	・ペアで、お互いにお薦めの国について伝え合うやり取りを繰り返し行う。	2 知	○	[知・技①] (活動の観察、振り返りシート点検) ・既習表現を使って、行きたい国について尋ねたり答えたりしている。
7	・自分の行きたい国とその理由について説明し、ペアでやり取りをする。	知	○	[知・技①] (活動の観察、振り返りシート点検) ・既習表現を使って、行きたい国について尋ねたり答えたりしている。
8	・世界地図を基に、自分の行きたい国とその理由について説明し、ペアでやり取りをする。	本時 思	○	[思・判・表①] (活動の観察、振り返りシート点検) ・やり取りをするなどして、自分の考えを伝え合っている。

指導に生かす評価
 英語での言語活動(やり取り)の状況を見取り、努力を要する状況の児童を中心に、教師がペアになったり、活動後に全員一斉に尋ねたりして指導します。

記録に残す評価
 ペアを替える等して、全員の児童の言語活動(やり取り)の状況を段階的に記録に残します。

* 例示している「単元の評価規準」と「指導と評価の計画」の形式は、「指導と評価の一体化」のイメージを分かりやすく表したものであり、学習指導案の形式とは異なります。

本時における「おおむね満足できる」状況(B)の児童の姿

◇ 評価規準を児童の姿で示した具体例 【思・判・表①】
 世界地図を基に、相手のことをよく知るといった目的や場面、状況に応じて、自分の行きたい国とその理由について説明し、やり取りをするなどして、ペアで自分の考えを伝え合っている。

Point 【やり取り】の見取り方
 教師が1時間で児童全員のやり取りを見取ることは現実的ではありません。全員の見取り方として、例えば、単元の途中のある時間に、やり取りが十分できる児童を優先的に見取り、記録します。その見取りを踏まえ、次時では、前時でやり取りが不十分と判断された児童を優先的に見取り、指導します。最終時では、それまでにやり取りが不十分だった児童が改善されていた場合に記録に残すことが考えられます。また、学期に1回程度のパフォーマンステストを実施し、評価の妥当性や信頼性を高めることも大切です。



学習評価で大切にしたいこと

年間を見通した学習評価

特別活動は、活動の積み重ねにより年間を通して児童の資質・能力の育成を図ります。各活動・学校行事における顕著な児童の姿は、補助簿等を活用して記録しておきます。

新たな目標や課題がもてる学習評価

特別活動では、児童が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題をもてるようにする評価を進めることが必要です。そのために、活動の過程における児童の努力や意欲等を積極的に認めることが大切です。

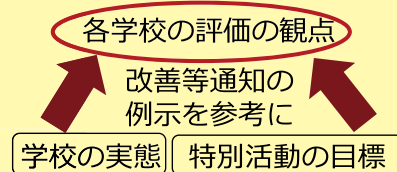
評価の観点及びその趣旨

特別活動は、特別活動の特質と学校の創意工夫を生かすということから、設置者である各教育委員会ではなく、「各学校で評価の観点を定める」としています。下記に示す「評価の観点及び趣旨」は、各学校において評価の観点を設定する際の参考になります。

観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
趣旨	多様な他者と協働する様々な集団活動の意義や、活動を行う上で必要となることについて理解している。 自己の生活の充実・向上や自分らしい生き方の実現に必要なことについて理解している。 よりよい生活を築くための話し合い活動の進め方、合意形成の図り方などの技能を身に付けている。	所属する様々な集団や自己の生活の充実・向上のため、問題を発見し、解決方法について考え、話し合い、合意形成を図ったり、意思決定をしたりして実践している。	生活や社会、人間関係をよりよく築くために、自主的に自己の役割や責任を果たし、多様な他者と協働して実践しようとしている。 主体的に自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとしている。

Point 各学校における評価の観点の設定

評価の観点は、学校の実態、学習指導要領の特別活動の目標を踏まえ、改善等通知の例示を参考に各学校で設定します。その際、学校として大切にしたい内容を踏まえた評価の観点になるようにするため、次の手順を参考に教員間で意見交換する場を設け、共通理解を図ることが大切です。



◇ 児童の具体的な姿を考える

特別活動における資質・能力の視点（自己実現）を重視した学校の例

学級や学校の一員としてのこれまでの自分を振り返り、なりたい自分に向けて目標をもって努力し、他者と協働してよりよく生きていこうとしている。

◇ 具体化した姿から評価の観点を設定する

「観点名」
主体的に目標を立てて
共によりよく生きようとする態度

重視する内容を踏まえた評価の観点にするためには、左の具体的な児童の姿を基に、キーワードを選んで観点を設定します。

「主体的に学習に取り組む態度」の評価規準の作成

特別活動における「主体的に学習に取り組む態度」は、自己のよさや可能性を發揮しながら、主体的に取り組もうとする態度として捉え、次の三つの内容を含めて評価規準を作成します。

- I 粘り強さ（例：粘り強く、積極的に、進んで 等）
- II 自らの学習の調整（例：見通しをもって、振り返りを通して）
- III 自己のよさや可能性等に関すること（例：自己のよさを發揮、責任を果たして 等）

第5学年及び第6学年「学級活動（1）学級や学校における生活づくりへの参画」

学級活動の
評価規準例

楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために、見通しをもったり振り返ったりしながら（II）、自己のよさを發揮し、役割や責任を果たして（III）積極的に（I）集団活動に取り組もうとしている。

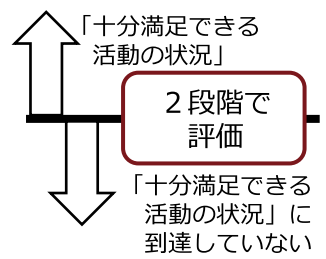
Point

学級活動については、低・中・高学年ごとに評価規準を作成することが望まれます。児童会活動、クラブ活動、学校行事については全学年共通の評価規準を作成します。

学習評価における留意点

「十分満足できる活動の状況」を2段階で評価

特別活動では、2段階で評価を行います。その際、学級会ノートにおける事前の意見や実践後の振り返り等の記述を参考にしたり、話し合いや実践の様子を観察したりしながら機会を捉えて評価することが大切です。なお、「十分満足できる活動の状況」については、他の教科等と同様に具体的な児童の姿で評価規準を設定することが大切です。



観点別学習状況の評価の総括

学期や年間を通して一覧で確認できる評価補助簿を活用すると、事実に基づいて評価の総括ができます。ここでは、学級活動を例に挙げていますが、児童会活動、クラブ活動、学校行事についても同様に評価を記録しておくことで、評価の総括に役立てることができます。

総括して○を付ける際には、学校で方法を統一しておく必要があります。例えば、「知識・技能」において○が付いていなくても、他の観点で複数○が付いている場合、総括において○を付けることも考えられます。

〈学級活動（1）における評価補助簿の例〉

※○は、各時間や総括において、「十分満足できる活動の状況」を示します。

番号	名前	知・技	思・判・表	主体的態度	メモ	総括
1	A		○○○	○○	9/28 学級会でみんなが納得するアイデアを改善策として発表していた。	○
2	B			○		
3	C	○	○○	○○○	5/20 役割に見通しをもって準備をしたり休み時間にクイズを考えたりして、お楽しみ会でみんなを楽しませる等、主体的に活動した。	○

一連の学習過程を通して、「十分満足できる活動の状況」の場合、観点別に○を付けたりメモ欄にその様子の記述に日付を加えて記録したりします。設定している評価規準に照らして「十分満足できる活動の状況」と判断したタイミングで観点別に○を付けます。特別活動は、全員を一律に「記録を残す評価」として見取ることができない場合もあることを踏まえて、年間を通じて継続的に評価補助簿で記録していくことが大切になります。

指導要録における特別活動の記録

番号	名前	学級活動（1）の補助簿の総括評価	学級活動（2）（3）の補助簿の総括評価	指導要録
1	A	○		○
2	B		○	
3	C	○	○	○

A児のように、学級活動（2）（3）の補助簿において総括評価に○を付けていない場合でも、学級活動（1）において、創意工夫を生かして話し合う活動を評価した場合、指導要録に○を付けることも考えられます。

C児のように、学級活動（1）及び（2）（3）の総括評価がどちらも○の場合、指導要録に○を付けます。

「十分満足できる活動の状況」の児童の姿

本時の指導計画においては、各活動・学校行事ごとに設定した評価規準に即して、事前・本時・事後における「目指す児童の姿」を具体的に設定します。一例として、卒業アルバムの学級ページについて話し合う本時の学級活動（1）〔第6学年〕の評価規準例を示します。

◇ 評価規準〔思・判・表〕（観察・学級会ノート）
 学級のみみんなの願いが詰まった卒業アルバムの学級ページにすることを踏まえた上で、それぞれの意見に込められた思いや学級全体にとっての価値に着目しながら、二つの意見を統合する等よりよい考えに練り上げていけるように話し合いを進めている。